

シグマ委員会 核データ専門部会
 グループミーティング合議録(案)

日時 昭和62年2月13日 10:30 ~ 12:00

場所 日本原子力研究所 本部 第4会議室

出席者 松延(住原工), 中川(原研), 飯島, 川合, 村田(WAIG)

特別出席者 五十嵐, 浅見(原研)

配布資料

- (1) 核データセンターの研究業務計画概要
- (2) JENDL-3の編集とベンチマークテスト計画
- (3) 「JENDL-3以降の核データ関連分野の動向」(JAERI-memo 61-330)の板取り
- (4) ガス生成, カリマ線生成, 中・重核 サフワウケ 状況

議事

1. 今後の核データ活動について [原研 五十嵐室長より資料(1)に続いて説明があった。62年度以降はデータベース(開発と4の有効利用)及び核データ測定の(大学委託等により実施)を二本の柱として進めたい。JENDLに関しては特殊目的核データファイル作成に重点を置く。また、シグマ委員会活動は実作業を行うのではなく、国際協力、ベンチマーク、委託作業等の検討・調整を中心に進めたい。

2. JENDL-3 編集とベンチマークテスト計画について

先に開催された 原研炉物理委員会核融合炉専門部会での報告された JENDL-3 編集とベンチマークテスト計画について 原研 浅見氏より 報告があった。62年度に実施される核融合炉二重トロイウス関係のベンチマークテストについては核融合炉専門部会の中でモ積分テストと

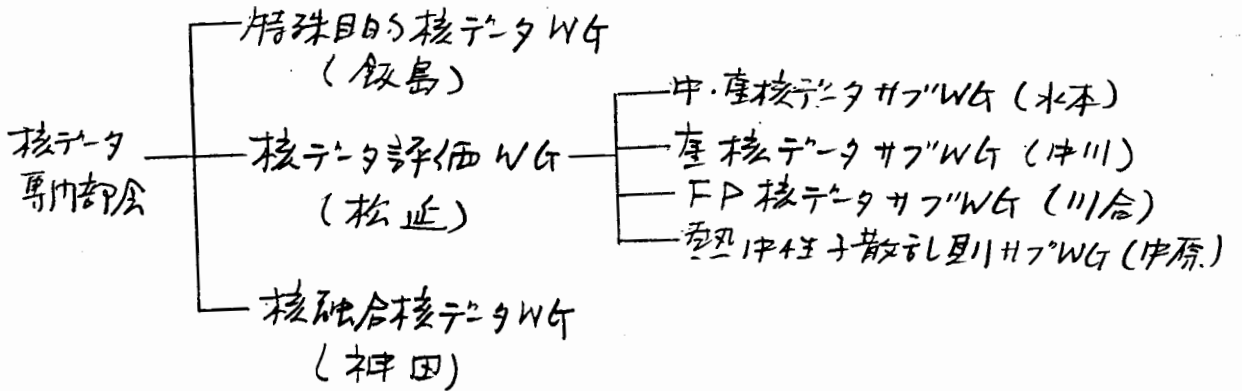
実施しなくてはならない要望が強く、協力して進める必要がある。

3. 核データ専門部会の組織について

62年度は JENDL-3 向けの評価が終了し、そのベンチマークテストが炉定数専門部会を中心として実施されたが、その結論に従い、評価値の修正を行う必要がある。これに対応するため、現在の評価体制を維持する必要がある。

また、JENDL-3 以降の計画検討小委員会の答申に対応するため 特殊目的核データファイル作成^等を進める必要がある。

上記事項を考慮し、種々討議した結果 62年度の核データ専門部会の組織として下記の案をまとめた。



() 中はリーダー

なお、人員構成等については 62年度初めに全体会議を開催して決定する。

以上